

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆう希苑
(ユニット名)	グループホームユウキエン
所在地 (県・市町村名)	千葉県千葉市花見川区天戸町1366
記入者名 (管理者)	武田 紀子
記入日	平成 20 年 1 月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	利用者さんの存在を、近所の方々に感じて頂く為にも、苑内だけで生活するのではなく、外に出る機会を多く持ちたいと考えている。現在は散歩時の様子を見て頂いている位であるが、一緒に行える行事等にも参加していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の行事、活動に職員、利用者が参加できるよう、自治会の活動内容を把握するよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は全く行っていない	○	自治会の会合等に参加し、当苑の職員の持っている能力で役立つ事があれば貢献したいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価を受ける意義・目的を話し、全員にて自己評価を行った。それにより、今後の改善点・個々への指導の方向性が解った。	○	評価結果を質の向上の参考にしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は行っているが、回数が少ない状態で、内容も同じ様な報告で終わっている。	○	有意義な会議内容にするために、今回の評価結果を報告し、サービス向上に繋がる会議にしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村関係の方は運営推進会議には、まだ出席はしていただいていません。また、相談についても行っていません。	○	今後は、市町村関係の方へ積極的に伺い情報入手し、又、相談すべき事については相談をお願いしたいと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については知っておりますが、勉強する機会はありませんでした。	○	今後は、研修会に出席し、知識を深めていきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止についての話し合いは行っていますが、外部の勉強会等は参加していません。	○	行政にて開催している研修会への参加をして行きたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>入居される前に、充分説明しています。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>気軽に意見・苦情を言っただけのように、常日頃から声を掛けてコミュニケーションをとるように心がけています。また、外部の苦情機関案内を掲示しています。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>ご家族の来苑時には必ず言葉をかけ、日ごろの生活状況等を説明し、年4回送付している『ゆう希苑便り』にて職員の変更等をお知らせしている。</p>	○	お知らせの方法、内容が今の状況でよいか、ご家族の意向を伺い、必要なら改善していきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>来苑時にお話を伺うようにしています。また、玄関先に投書箱を設け、直接職員に言い難い事も書いていただけるようにしている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>月1回の職員会議で日頃の考えや提案を聞くようにしている。</p>	○	会議でも言えない考え・問題等を把握するために、年1回程度の個人面談をしていくつもりです。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>職員に入院や事故等の変化があった場合は、日常業務に支障をきたさないような人員確保をしている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>退職者ができるだけ出ないように、コミュニケーションをとり、日頃から悩み等を把握するように努めている。異動になった場合は、入居者様1人1人に紹介し、早くなじんでいただけるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	小さな施設の中だけでの研修には、人的資源にも限界があり、ネットワークを有効利用して、質の向上を目指して行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	私的な時間に、ストレス解消等ができるように、勤務時間、曜日等、個人の希望に可能な限り対応して行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	入居時に、家族から聴取した本人の生活状況を、職員全員が把握し、施設入居という環境の変化による不安、混乱を少なくするように対応している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの性格上、内容的に対応できない場合は、入居者様に合った支援の方法を助言している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初、ご本人・ご家族とも不安が強い場合は、ご家族に泊まっていたり、毎日面会に来ていただき、徐々に馴染んでいただけるような方法を取っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長年の生活経験の中から教えていただくことも多く(行事・料理・庭の手入れ)参考にさせていただいています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会等で、認知症に対する理解を深めてもらい、行事等のお手伝いをしていただく中で、家庭では見られなかった姿を見て、驚いたりされることも多いようです。	○	ボランティアで、毎月、レクレーションに協力して頂いているご家族もいるが、外出の手伝い等、利用者と一緒に楽しんで頂けるよう、家族会等で依頼していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来苑の時、苑での様子・ご家族に対する思い・言葉等を伝えるようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人からの希望があれば、電話・手紙等が自由に使用できるようにしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座る場所を工夫したり、リラックスして話あったり出来るよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅へ退所された方には、電話等で様子を伺うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動を促す時は、強制することなく、「～しますか?」と必ず本人の気持ちを引き出すような声かけを心がけています。自ら意思の表出が少ない方に対しては、こちらからの話かけを多くし、うなづき等のサインを得るようにしている。サインが読み取れない場合も、表情や行動など快・不快を考慮した関わりを基本としています。	○	団体生活であるからと個を軽くみることなく、本人のペースに合わせたゆとりを持った支援をしていきたいと思っています。勤務帯で1回は個人的に思いを聞いたり、本人の好きな話題を出して話す時間を持つように心がけていきたいと思っています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、細かい部分までの聞き取りは困難なことが多く、1年程経ってから必要性を感じた事項もありました。キーパーソンとの職業・前施設からの情報収集も時には必要と考えています。	○	入居時のご本人との面接(可能な限り行う)入居時にアセスメント表に基づいての聞き取りを行うようにしていきます。はじめに聞けなかった事項については、家族との関係付けを深めながら、うかがい把握に努めます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態・暮らしの現状については、記録の工夫、申し送りを細かく時間を取るようにして、スタッフ間で共有するようになっています。変化や困りごとについては、探るようにつなぎ、対応を検討しています。	○	連絡ノート・薬の変更や、医療面だけでなく有する力の現状が把握できるよう活用していきたいと思っています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	気持ちが表出できる入居者様には、直接困り事や、介護についての意向を伺っていますが、「今のままでいい」との返答ばかりでありました。ご家族には、随時心身状況・プランの評価について報告し以降を伺うようにしています。スタッフ間でのカンファレンスの時間がなかなか持たず、アイデアを反映しているとは言えません。	○	チームで作ると言う認識を高めていきたい。ケースカンファレンスをより多くもち、担当者意識を持って課題とケアのあり方について、スタッフの啓蒙活動をする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は3ヶ月を基本としていて、変化が生じても現状に則し早期に見直しすることができず、実際の援助が先行し計画書が後追いとなる事が多かった。	○	変化が生じたときには速やかに、せめて1週間以内には新たな計画書が出来るようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直し変更して改善したはずの記録であるが、ケアの実践・結果・気づきや工夫までは、スペース的に不足な状況であります。	○	不安定な状況と判断するときは面倒がらずケース記録用紙を用いて記録する事。ケアのアイデアなども積極的に書き入れする雰囲気作りをしていきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	園芸のボランティアさんに、庭仕事の好きな入居者様と花作りをしていただいています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個人の希望により、マッサージや通院の介護タクシーの利用をしている。	○	地域にある資源は把握している。必要に応じて、本人、ご家族に情報を提供し、生活の質の向上を目指したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在協働していることは、ございません。	○	長期的ケアマネジメントを行っていく時に、支援センターとの協働は、とても重要であると思われる。運営推進会議への出席をお願いし、入居者の状況を知って頂ける関係を作っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向により、それぞれの医療機関で適切な医療をうけておられます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関と良い関係を築けており、適切な医療が受けられています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師がおり、適切に健康管理が行われています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症という特性により、入院生活が難しいため、入院は出来る限り短期にしてもらい、苑内で出来る限り治療が出来るようにしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望によっては、看取りも出来るように、医療機関と話し合い現実におこなっています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を苑にてと希望される家族とは、医師を含めて充分話し合い出来ることの限界を知っていただいた上で悔いの無い生活が出来るように援助しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所時の状況により、関係機関へは、必要な情報提供はしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋に入るとき・荷物の整理時等、個人の所有物を勝手に移動したりしないよう、同意を得た上で行っています。記録類も事務室で管理または、鍵のかかるところで保管しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	傾聴することを基本にしており、希望の表出はしていただけていると思います。ただ、希望に沿いかねる事も多々ございます。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・入浴・食事等、原則・規則はありません。その日、その人のペースに合わせて支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容師さんに、月に一度来てもらい、多くの方はそのときに整髪していますが、本人の希望により、ご家族の協力により、外の美容室に行っている人もいます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力、希望により行っています。	○ 献立を立てる段階で、入居者様の意見、嗜好を取り入れて行く。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事に関しては、食べやすい状態にして提供させていただいています。嗜好な物も出来るだけ取り入れるようにしています。酒・たばこに関しては、現在提供しておりません。	○ 今のところ、タバコが無くて困る人は入居されてませんが、より生活を楽しむために必要な方が入居された場合は支援していく考えです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表により、個人の排泄パターンを知り、トイレに誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今のところ、時間・曜日は、苑側で決めています。	○	毎日入浴されたい方もおり、入浴回数については、可能な限り対応しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望・年齢等を考慮し、入浴後・昼食後等に休息・昼寝などしていただくようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の状況・理解力の程度により、出来ることは手伝っていただいています。掃除・食事の片付け・洗濯物の片付け・庭仕事などです。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人の理解度に応じて、本人管理・施設管理としております。	○	介助が必要な方には、職員の介助で近くのスーパーに行っているが、もう少し回数を多くしたいと思っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの状況により、1人で外出可能な方、苑の職員と一緒に出かけられる方など、個別に対応しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力により、旅行に行ける方も数人いますが、大多数は身体的状況により、長時間の外出は無理があり、苑の車でドライブ・近隣の植物園などに行っています。	○	現在もご家族と外食、墓参り等、外出しているが、より多くの方が出掛けられるように、家族会等で協力を得られるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により自由に利用できるようにしています。また、家族からの電話も本人と直接お話できるようにしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑時には、気軽にお話できるようにお部屋に案内し、テーブルと椅子を用意しお茶等をお出ししています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の具体的な行為は職員全員よく理解しており、原則禁止となっています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	苑開設以来、日中はすべて鍵はかけていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者様の状況、行動をよく理解して、情報を伝達しあいながら、問題行動のある人にはさりげなく目を離さないように注意しあっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は夜間のみ手の届かないところへ移動し、誤飲して危険な物は目につかない場所で保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様の行動、身体の状態をよく理解して起こりえる事故を考えることが大切である事を職員が納得し、日々の情報を共有しています。	○	事故報告書からの情報を全員が把握し、再発防止に努めている。火災を想定し、避難訓練を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応・事故時対応は入職時に研修を行い、その後年一度勉強会を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は、定期的に行っているがその他の災害時についての訓練はおこなっていません。	○	災害時に地域の方の協力を得られるように、自治会の会議時にお願ひし、具体的な方法を検討したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に転倒・急変・無断外出等予測できない事故のありえる事も話あっています。また、そのような事のないよう努力することも話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと違う、何か変といった事に気づく観察力が大切である事を日頃から話し合っています。また、その情報を共有し、対応に結びつけています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬箱に服用薬の説明書を入れ、日頃より服薬に関する情報はよく理解しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の状況を記録しており、便秘傾向の方には水分補給を心がけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っています。夕食後は入れ歯を洗浄剤に浸し、清潔を心がけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には全員同じメニューですが、個人の「状況に応じ食べやすい形態にして必要なカロリーが採れるようにしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時に感染症の有無を確認し、インフルエンザに対してはワクチンを接種し、日々は手洗いなどに注意を心掛けています。	○	インフルエンザに関しては、職員もワクチンを接種し、流行期には、ご家族にも注意を促している。食事の準備、片付け時の手洗い、アルコール使用を徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場の清潔・調理用具の消毒・調理者の健康管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲を低い囲いにし、孤立せずに中の状況が見やすい作りをしています。看板も大きく見やすく玄関周囲も花を置き入りやすい状況にしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂が繋がっており、料理の音・臭いなど生活を感じることが出来るようにしています。庭に咲いた花を飾ったり日ごろのレクリエーションの作品を壁に飾ったりして楽しんでいます。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ思い思いの場所で過ごしています。ソファでおしゃべりしたり、和室で寝転んだりして過ごしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用方法は可能な限り、本人・ご家族の望む形にしており、家具の持ち込みも可能にしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	おむつ交換後の換気・トイレの換気など、不快な周期が滞る事のないよう、換気・消臭剤で対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂・廊下・階段など、危険が予測される所には、適切に手すりをつけており可能な限り自立して行動できるようにしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには分かりやすく表示している。日付けがわかるように、大きな日めくりカレンダーを手作りしている。又、食事した事を忘れるが書字の得意な方には、カレンダーに食事の内容を記入して頂いています。	○	スタッフからのアイデアを生かし、利用者のできる、わかる能力を見極め、引き出していける支援を心がけていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の野菜・花作りを楽しんでいただいています。暖かい時間はベランダでお茶を飲んだり・レクリエーションをしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)